



国際ロータリー第2790地区 千葉南ロータリークラブ会報

THE ROTARY CLUB OF CHIBA SOUTH



■創立■ 1964年3月2日 ■例会日■ 毎・金曜日12時30分 ■例会場■ オークラ千葉ホテル
■会長■ 小林 透 ■幹事■ 廻 辰一郎 ■会報委員長■ 石井 慎一
■事務局■ 〒260-0027 千葉市中央区新田町12-1 トーシン千葉ビル7階 (☎043-245-3204)

2016-17年度

第2566回

平成28年11月25日(金) 点鐘12:30 《晴れ》

- ◆ロータリーソング『それでこそロータリー』
- ◆四つのテスト ～言行はこれに照らしてから～
 1. 真実か どうか
 2. みんなに公平か
 3. 好意と友情を深めるか
 4. みんなのためになるか どうか

◆お客様紹介

◇本日のゲストスピーカー／地区ロータリー財団委員会
財団資金・推進管理小委員会委員長 水野 晋治様
◇ひかり学園 園長 武藤 直樹様

◆会長報告及び挨拶 小林 透会長

「ロータリーリーダー」という雑誌にロータリーイベント開催メリットについての解説がありましたのでご紹介いたします。

- ① ロータリーの認識を高める
- ② 入会につなげる
- ③ ファンドレイジング(募金)
- ④ 地元の参加を促す
- ⑤ メディア報道を促す
- ⑥ もっとよいことをするためのネットワークが広がる

◆委員会報告

■ 金親 博榮ガバナー補佐より

ガバナー補佐の任期も半分近く終わりました。一昨日は、ガバナー公式訪問も私どもの分区で終了しました。

ガバナーご自身におかれましても、自クラブの成田コスモポリタンRCを除いて全て終わられた日でした。その日は、大雪に見舞われ、帰れるのかなという状況下でしたが、非常に気さくなガバナーと色々な話をすることができました。公式の行事につきましては、毎月の合同幹事会とIMを残すのみとなりました。

今年は、規程審議会の大幅な規程の変更がございま

して、大分、細則とか定款を変えなければと思っておりましたが、本年はじっくり準備をして、変更は来年度に持越しということになりましたので安堵しているところです。

それから、「感謝と挑戦」という話が出まして、会費を払える、ドメーションができる、寄付ができる、そういうことができて良かったね、と言えるロータリー組織にしようということも私もガバナーと一緒にいる時間が相当長いものですから考えを共有してまいりました。

また、ロータリーを楽しむためにロータリーを勉強しようというクラブが大分増えてきました。私どもの分区では千葉緑RC、市原RC、千葉北RCがそうであり、年間のスケジュールを作って勉強会を行っております。これを受けていう訳ではないですが、ロータリーについての漫画本ができましたので、これを各クラブで配布してもらえないかという話になっており、今度の合同幹事会で各クラブにサンプルをお渡ししますので、各クラブでご検討いただくということになっております。

第3分区Bは、6クラブあるのですが、各クラブを4回～5回訪問しまして、半年経ってお互いに違和感なく話ができる状態になってきた次第です。

ホストクラブとして、皆様のご協力もあり、千葉南クラブがしっかりやっていたという御礼を申し上げます。まだ半年残っておりますが、取り敢えず中間のご報告とさせていただきます。有難うございました。

■ 社会奉仕委員会(酒井秀大委員長)

今日は、ひかり学園の武藤園長がお見えになっております。ご注文いただいた野菜の配布がございましたので、例会終了後お持ち帰り下さいますようお願い致します。ご購入いただきました金額は合わせて、240,900円となりましたのでご報告させていただきます。

また、バザーへの献品等、皆様のご協力有難うございました。

■ ひかり学園 武藤直樹園長より

このたびは野菜パック、自然薯、色々ご購入いただきましてありがとうございました。多古町のイキイキフェスタ多古ですが、皆様からいただいた品々が飛ぶように売れました。人が一番沢山いたように思います。色々沢山ご提供いただき有難うございました。引続きリサイクル品とかご協力のほどよろしくお願いたします。

①次週12月2日(金)の例会時に年次総会がございますので皆様のご出席よろしくお願ひいたします。

②地区ロータリー財団100周年記念シンポジウムに合わせた公イメージ向上企画協力金のお礼状が青木ガバナーより届いております。全体の協力金の集計額は66万4千円で、そのうち当クラブからは、12,750円(@250円×51名)を寄付しております。

◆ニコニコボックス報告

《小林 透会長・廻 辰一郎幹事》

一昨日の雪は、11月としては都心では54年ぶりとか…。手足が冷えてカチンコチンになりましたが、温かい鍋でも囲んで風邪予防に備えたいものです。

さて、本日の卓話は、ロータリー月間ということで、地区ロータリー財団委員会より水野様にお越しいただいております。財団は難しいといわれておりますが、しっかりと勉強をさせて頂きたいと思っております。

どうぞ宜しくお願い致します。

《江沢 一男会員》

地区ロータリー財団委員・水野晋治様、大変お忙しい中、当クラブの卓話を快くお引き受け下さり、有難うございます。本日の卓話、宜しくお願い致します。

11日の分区ゴルフでは、ブービーでした。楽しいゴルフでした。

本日のニコニコボックス	4,000 円	累計	195,000 円
金の箱	0 円	累計	9,708 円

◆出席報告 (会員数51名)

出席者数	欠席者数	ピンター	11/11 修正出席率
26名	26名	2名	100 %

千葉市内例会変更のご案内 [メーキャップにご利用下さい。](#)

千葉RC	月	12/19	三井ガーデンホテル千葉
千葉西RC	火	12/20・12/27	センテイタワー「東天紅」
千葉幕張RC	火	12/6・12/27	アパホテル&リゾート東京ベイ
新千葉RC	水	12/14・12/21	京成ホテルミラマーレ
千葉北RC	水	12/21・12/28	ホテルポートプラザちば
千葉中央RC	木	12/8・12/29	三井ガーデンホテル千葉
千葉港RC	木	12/15・12/29	京成ホテルミラマーレ

第2567回例会

日時⇒ 平成28年12月2日(金) 点鐘12:30

卓話⇒ 『会員卓話』 伊藤 和夫会員

第2568回例会

日時⇒ 平成28年12月9日(金) 点鐘12:30

卓話⇒ 『会員卓話』 鷺見 隆仁会員

卓話⇒ 『地区補助金活用とシェアシステムの仕組み』

卓話者⇒ 地区ロータリー財団委員会
財団資金・推進管理小委員会
委員長 水野 晋治様



地区ロータリー財団委員会 財団資金・推進管理委員会水野晋治と申します。よろしくお願ひ致します。

今月11月はロータリー財団月間です。本日は月間に因んで「ロータリー財団と寄付」というテーマで財団へ寄付の現状などについて少しお話をさせていただきます。

ロータリー財団の使命は世界で健康状態を改善し、教育への支援を高め、貧困を救済する事を通じて、世界理解、親善、平和を達成できるようにする事です。

ロータリー財団は、クラブや地区による地元での社会奉仕プロジェクトや、海外での国際奉仕プロジェクトといったロータリーの奉仕活動を資金面で支えています。また、全世界規模で行われているポリオ撲滅活動にも多額の資金を授与しています。財団の資金は、ロータリアンをはじめとする支援者からの寄付によって支えられています。アーチ・クラフは、ロータリーの恒久的な基金というビジョンの実現に尽力したことから、「財団の父」と呼ばれています。

1917年のアトランタ大会で、クラフは次のように述べています。「諸々の社会奉仕を今まで通りに実行していくには、慈善・教育・そのほかの社会奉仕の分野において世界でよいことをするための基金を作るのが、極めて適切であると思われる」後にこのビジョンを土台として誕生したのがロータリー財団です。彼の「世界でよいことをする」という言葉が、財団の標語となりました。同じく1917年、アトランタ大会でのクラフの提案に応えるかたちで、米国ミズーリ州のカンザシティ・ロータリークラブから、最初の寄付26ドル50セントが基金に寄せられました。しかし、その後ほぼ10年間、この基金が大々的に知られることはなく、寄せられた寄付もごくわずかでした。1927年、ロータリーのリーダーは基金への関心を高め、その翌年、ロータリー大会の代議員によって、この基金はロータリー財団という名称に正式に変更されました。1928年アーチ・クラフは以下のような言葉を残しています。「この基金を人びとに知られぬままにさせてはならないと、私たちは強く感じています。一人ひとり、すべてのロータリアンがこのことを十分かつ正確に理解できれば、たとえ合計額が極めて少ないものであったとしても、この基金を支えようと皆が思うようになるでしょう」

次にロータリー財団への寄付についてご説明します。ロータリー財団への寄付は大きく分けると**年次基金**、**ポリオプラス**、**恒久基金**、**その他基金**に分かれております。中でも年次基金には毎年ご寄付をいただく必要がございます。年次基金寄付は、ロータリー財団への寄付の基盤です。地区補助金プログラムの主な資金源等になります。当地区では今年度会員1人当たり150ドルを目標に寄付をお願いしてお

ります。

年次基金寄付は3年後にシェアシステムにより地区財団活動資金(DDF)と国際財団活動資金(WF)に50%ずつ配分されます。DDFは地区の裁量の下に「地区補助金」、「グローバル補助金」、「ポリオプラス」や「ロータリー平和センター」への寄贈等に全額使われます。

年次基金が今日の財団プログラムを支える一方、**恒久基金**は明日の財団プログラムを確かなものとするために、元金には手をつけず投資収益のみを使います。

これにより、世代を超えて大勢の人々を支援し、希望を分かち合うことができます。寄

ポリオ(急性灰白髄炎(きゅうせいはいはくずいえん)いわゆる小児麻痺)は、身体麻痺の後遺症をもたらす、時として命さえも奪う伝染病です。この基金は、ポリオを世界から撲滅するという目標を達成するために利用されます。治療法のないポリオに対する最善の対策は予防です。ロータリアンはこれまで、122カ国、20億人以上の子どもたちへのポリオ予防接種を支援してきました。わずか60円ほどのワクチンで、一人の子どもを生涯ポリオから守ることができます。ポリオ撲滅のための基金「ポリオプラス」へは毎年1人当たり30ドルの寄付をお願いしています。

ロータリーは、1979年にフィリピンの子どもたちにポリオ予防接種をはじめて以来、パートナー団体とともに懸命に活動を続け、全世界でポリオの発症数を99.9パーセント減らすことに成功しました。今、あと少しでポリオを撲滅できるまで来ています。しかし、撲滅を完全に成し遂げるには、皆さまからの支援が欠かせません。日本でもポリオ予防接種に毎年およそ180億円以上の費用が必要と言われています。ポリオが根絶されると毎年日本だけで予防接種代が毎年180億円必要なくなります。逆に1年遅れれば180億円がまた必要です。

次にシェアシステムによる地区財団活動資金の流れを簡単に紹介します。

3年前の年次基金寄付総額は266,681.76ドルでした。

⑦266,681.76ドル×50%=133,340ドル

⑧前年度の恒久基金の収益の50%=27,137ドル

⑨前年度の繰越金57,155ドル ⑦～⑨の合計が地区財団活動資金で217,632ドルとなります。そこから地区補助金へ80,238ドル、グローバル補助金へ65,000ドル、ポリオプラス、ロータリー平和センターへ25,000ずつ、予備費として22,394ドル配分しました。

次にこの地区財団活動資金を使った事業、(今年度の)地区補助金の申請状況について少しご紹介致します。地区補助金の申請数は年々増加傾向にあり、今年度は39件でした。(社会奉仕プロジェクト32件、国際奉仕プロジェクト7件)この地区補助金の原資は先ほどもご説明しましたシェアシステムにより地区に戻った地区財団活動資金より拠出してあります。これこそ分け合うという意味を持ったシェアから来ている「シェアシステム」の特徴です。シェアという言葉の意味は「分け前」や「出し分」といった意味がある反面「負担」や「出し分」といった意味をも持っています。地区補助金やグローバル補助金の原資はみんなが負担しあっているのです。

次に寄付金の現状についてご説明していきます。

(この表は)財団室 NEWS 8月号より抜粋した国内34地区の2015-16年度の寄付実績をもとに当地区の寄付の現状をご説明していきます。

昨年度当地区の年次基金寄付総額は343,352.30ドルでした。また、会員1人当たりは126.28ドルでした。地区ごとに会員数が違います。寄付総額ではなく1人当たりの寄付額で比べてみましょう。1人当たりの寄付額は全国34地区中、21番目という事になります。これは多いのか少ないのか難しいところです。次に関東地方の地区で比べてみましょう。

関東地方の地区の状況はどうでしょう?我々の2790地区はというと…一番低い事が分かります。過去4年間の平均を調べてみました。4年間の平均が120ドルという結果でした。日本全体の平均では135.4ドルで、平均でも最下位となり、関東地方の10地区中、10番目という結果です。なんとも悲しい結果です。ロータリーは寄付団体ではございません。しかしこれでいいのでしょうか?

「シェア」分け合う反面負担もしあうものです。確実に関東の平均を下げています。いや、日本の平均も下げています。

次に地区の状況です。昨年度年次基金寄付の総額は343,352.30ドル。1人当たりの平均は126.28ドル(全国平均136.08ドル)。昨年度までの1人当たりの寄付目標は130ドルでした。これを達成されているクラブは31クラブ。未達成クラブは53クラブという結果でした。また、最も多いクラブで1人当たり678.30ドル。最も少ないクラブで1人当たり6.73ドルでした。100倍以上の差が開いております。

地区全体の寄付実績を年度別に少し抜粋してみました。年次基金寄付の推移は5年間では2011-12年度が一番多く、次は昨年度(2015-16年度)でした。また、年次基金寄付が最も少なかったのは3年前すなわち、今年度使える地区財団活動資金に影響が出ています。3年後の地区の社会奉仕、国際奉仕活動の活性化のために寄付ゼロは勿論、1人当たり150ドル以上のご寄付のご協力をお願い致します。また、注目するところは「寄付ゼロクラブ」です。2、7、14、1、0となっています。昨年度は念願の寄付ゼロクラブがゼロとなりました。

次に皆さんのクラブの状況を分析しました。5年間の年次基金への寄付総額の平均は、84クラブ中16番という結果で5429.71ドルでした。2011-12年度、2012-13年度までは地区の平均を引き上げていたのですが、2013-14年度、2014-15年度と減少傾向にあります。次に1人当たりの寄付額では18番という結果で1人当たり144.04ドルでした。昨年度2015-16年度は84クラブ中50番で1人当たり85.43ドルでした。繰り返しますが、シェアシステムは寄付を分け合うだけでなく、分担し合うという意味もございます。「世界で良いことをしよう」その第一歩は年次基金への寄付から始まります。26ドル50セントの最初の寄付が行われて以来、財団の資産は約10億ドルにまで成長し、これまでに30億ドルもの資金が、世界中の何百万人もの生活に変化をもたらすプログラムや奉仕プロジェクトに投じられてきました。

これからもロータリー財団へのご理解とご協力をお願い致します。

